

地域医療連携だより

えん

発行日：令和5年8月 発行所：富山赤十字病院 富山市牛島本町2丁目1番58 TEL. 433-2492 発行責任者：時光 善温

噛んで食べることの大切さ

歯科口腔外科部副部長 石戸 克尚

みなさんは今、ご自分の歯が何本残っているかご存知ですか？永久歯は12歳までに28本が生え揃い、多い人で親知らずを入れて32本あります。加齢に伴って、う蝕や歯周病により歯を失うため、50歳代から徐々に歯を失っていくことが多いといわれています。「80歳までに自分の歯を20本残そう！」という、8020運動が行われ、近年では歯を失う割合は減少してきているといわれていますが、それでも高齢者の75%が自身の歯での噛み合わせ（咬合支持）を失っており、その3割の方が義歯などの治療も受けておらず、噛み合わせの喪失（咬合崩壊）を生じているとされています。

では咬合崩壊することで何が生じるのでしょうか？

まず、うまく噛めないと、栄養の摂取に問題が生じます。硬いものや大きいものを避けて食べるようになると、栄養の偏りが生じますし、消化吸収にも影響します。また、歯の喪失によって顎の位置が変化するため、嚥下機能の低下を引き起こし、誤嚥性肺炎のリスクが上昇する可能性があります。さらには、歯がないと発音がうまくできないためコミュニケーションの障害が生じるほか、顔貌の変化により人との会話を避けるようになったりするなど、生活の質（QOL）の低下に大きく関与することがいわれています。近年では老化に伴う虚弱、フレイルが問題として取り上げられています。口腔機能の低下はオーラルフレイルと呼ばれていますが、これは全身のフレイルと非常に密接な関係があるといわれています。オーラルフレイルは、多くの場合、歯の喪失から始まります。歯がなくなっていくことで口腔周囲の組織の機能が低下します。ものを噛む際には、歯だけでなく舌、頬粘膜、口唇など周囲の軟組織、筋肉を連動させて食事を行います。歯が失われることでそのバランスが崩れ、口腔機能の低下が生じます。失われた歯を義歯などで補わないで放置すると、残った歯への負担が増加し、徐々に残りの歯もなくなっていき、口腔機能が低下し、オーラルフレイルとなっていきます。食事ができず、栄養状態が低下することで全身のフレイルへと進行していき、QOLの低下につながっていきます。つまり、歯を失うということは全身のフレイルへの第一歩とも言えるのです。

ではどうしたらよいのでしょうか？まずは、今の自分の歯の本数を確認しましょう。そしてそれを維持できるように、定期的に歯科受診を行い、メンテナンスを受けることが重要です。もし咬合支持が失われていたら、義歯やブリッジの作成を行い、咬合回復を行いましょう。入れ歯には抵抗があるなー、という方も多いと思います。最近では見た目がわかりにくい義歯もありますし、インプラント治療もその安全性や有効性が向上してきており、さまざまな治療の可能性があります。身体の健康のためにも、まずは口腔内の健康管理から見直してみたいはいかがでしょうか？



前列左から石戸歯科口腔外科部副部長、一色医師
後列左から泉田歯科衛生士、湯浅歯科衛生士、水本歯科衛生士

当院における助産師活動の紹介

アドバンス助産師、母性看護専門看護師 高橋 斉子



日頃より地域医療にご尽力されている先生方には、感謝申し上げます。

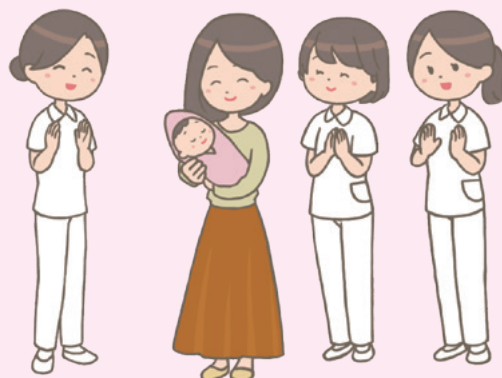
当院には、10名のアドバンス助産師(助産師外来、院内助産を自律して実践できる助産師)、1名の母性看護専門看護師を含む39名の助産師が在籍しており病棟と外来が連携しながら妊娠前から産後までの継続したケアに取り組んでいます。

昨今の妊娠・出産・育児のあり方は多様化しています。当院では、自然な出産・育児を望まれる方には、院内助産による家庭的なお産やBFH(赤ちゃんにやさしい病院)の強みを生かした母乳育児支援を行っています。また近年高齢出産、ハイリスク出産、産後に支援を必要とされる妊産婦も増加しています。出産による身体への負担軽減を希望される方には無痛分娩も行っています。母性内科では、内科疾患を持ちながら不妊治療を行う方へアドバンス助産師が相談支援を行っています。このような多種多様化する場面において助産師は、各診療科医師、看護師、栄養士、薬剤師など必要な職種間のカンファレンスをコーディネートしています。そして、患者さんが納得のいく選択ができるように、患者さんに寄り添った温かみのある支援を大切にしています。



私は母性看護専門看護師として、よりハイリスクな妊産婦、精神疾患治療中の方や虐待(ネグレクト)素因のある方のケア方針を受け持ち助産師と共に考えています。現在、飛躍的に生命予後が改善されている小児・AYA世代のがん患者さんに対して、治療開始前に妊孕性温存における意思決定支援の体制整備にも取り組んでいます。

妊娠前から産後までさまざまな視点からの連携が望ましい患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽にご紹介下さり、協働させていただけると幸いです。なお、無痛分娩は令和5年4月から開始しました。今後ともよろしくお願い致します。



肝炎デー

肝臓内科部長兼神経内科部長兼患者支援センター長 時光 善温



2012年から世界保健機関(WHO)はウイルス性肝炎のまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消や感染予防の推進を図ることを目的として、7月28日を「World Hepatitis Day(世界肝炎デー)」と決めました。厚生労働省も同日を「日本肝炎デー」と定めています。

当院では肝炎デーに合わせて啓発イベントを開催し、今年で12回目となりました。病院2階やすらぎホールではポスター掲示、肝臓クイズ

で分かりやすく肝炎について学んでいただきました。また無料肝炎ウイルス検査の受検手順についてもご案内しました。肝臓病教室では「消化器がんを知ろう～肝臓がん・胆道がん～」と題して、最新の治療についても紹介しました。

内服薬だけでC型肝炎はほぼ100%ウイルス排除ができ、B型肝炎もウイルスの抑制が可能な時代になりました。「肝炎の完全な克服」を達成し、肝硬変、肝臓がんへの進行を減らさなければなりません。皆さまの患者さんは肝炎ウイルス検査を受けていらっしゃるでしょうか。肝炎ウイルスの撲滅から取り残されている方はいないでしょうか。お気軽にご紹介ください。



患者支援センターの紹介

日頃より地域医療に貢献しておられる先生方には、当院に対して多大なるご協力と多くの患者様をご紹介いただきありがとうございます。

患者支援センターでは、当院のスローガンにもある「地域連携の深化、地域連携の熟成、地域連携の飛躍」を掲げ、地域に必要な病院として患者様ご家族様において安心・安全で切れ目のない医療・看護を念頭に地域連携の推進に取り組んでいます。

2017年に設立してから6年目となる患者支援センターですが、4月より医師1名、看護師11名、社会福祉士5名、事務員4名、病床管理事務職員5名で体制を整え、地域の先生方に安心してご紹介していただけるようにしております。また、ご紹介や緊急の患者様を断らない事をモットーに医療・看護の提供が行えるよう日々取り組んでいます。今後とも地域の先生方のご協力とご指導をよろしくお願いいたします。お問い合わせ、ご相談がございましたら、いつでもご連絡ください。



新たに地域医療連携の会に 加入いただいた医院の紹介

● 南條内科おなかクリニック

院長 南條 宗八先生

富山市石坂773-1 TEL 076-464-6213

● 自院PR



令和5年6月5日に富山市石坂に新規開業し、「患者さまに寄り添った診療」を心がけております。

Common disease、生活習慣病の治療継続から便秘、逆流性食道炎、慢性胃炎、過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎などの消化器疾患の専門的な診療、鼻からの胃カメラ、大腸カメラでの定期検査、大腸ポリープ切除術まで「かかりつけ医として地域の健康」に貢献できるように努めます。



● 富山赤十字病院に望むことは？

専門的な診療、エコー検査、CT検査、MRI検査などの画像検査、救急対応などいつも速やかに対応いただきありがとうございます。引き続き「頼りになる病院」としての機能を期待いたします。

9月はがん征圧月間、10月は乳がん早期発見強化月間です！

がん相談支援センター相談員 小川 恵梨

今年もがん相談支援センターでは、2階やすらぎホールにおいて9月はがん征圧、10月は乳がん早期発見強化月間の啓発事業を開催いたします。がん征圧月間では、「安心を 明日につなぐ がん検診」(公益財団法人日本対がん協会2023年度がん征圧スローガン)のスローガンのもと当院健診部門とともに、がん予防やがん検診の情報を発信し、がんに対する理解を深めて頂けるようにします。また、今年はコロナ禍で中止していた相談コーナーを設ける予定です。10月の乳がん早期発見月間では、「知ることがあなたを守る」と題して、乳がんの早期発見、早期治療についてポスター掲示を行います。10月18日(水)のやすらぎの会では、当院外科 渡邊和英医師のミニレクチャーを行う予定です。ぜひ、お立ち寄りください。

がん征圧月間ポスター掲示 9月1日～22日

乳がん早期発見強化月間ポスター掲示 10月2日～27日



昨年度がん征圧月間の様子



昨年度乳がん早期発見強化月間の様子

慰霊祭

総務課 松井 綾子

令和5年8月1日(火)、病院前庭慰霊碑前にて戦没者追悼慰霊祭が執り行われました。この慰霊祭は富山大空襲の日にあわせ、犠牲者の冥福を願い毎年行っております。

富山大空襲があったのは、太平洋戦争の終わりに近い昭和20年8月2日午前0時半頃。B29爆撃機174機が富山市中心部に50万発を超える焼夷爆弾を投下し、市街地の99%以上が焦土と化しました。11万人の市民が被災し、2千7百人以上の尊い命が奪われました。当院も病院・学校・支部施設が全焼し、多くの職員、入院患者、生徒が犠牲となりました。

慰霊碑には、富山大空襲で犠牲となった職員、日中戦争以後に戦死・病死された医療関係者の名前が刻まれています。

当日は、院長はじめ多くの職員が参列し、亡くなられた方の冥福と恒久平和を祈りました。



しっかり食べて熱中症対策を！

管理栄養士 仲町 恵里花

熱中症とは、高温・多湿により体温調節がうまく行えず脱水になることが原因と言われています。夏バテは自律神経の乱れ等が原因と言われていますが、夏バテを起こしている人は熱中症にもなりやすく、夏バテを予防する＝熱中症を予防すると言えるでしょう。

そこで夏バテ予防に効果があると言われていた食材、「うなぎ」についてご紹介します。皆さんはなぜ「土用の丑の日」にうなぎを食べるかご存じですか？

うなぎには蛋白質や脂質が多く、暑さで消耗した体力の回復に効果的だと言われていますからです。また食欲不振の解消や倦怠感の軽減に効果のある、ビタミンB1も豊富に含まれており、“体調の崩しやすい時期に不足しがちな栄養を補給して、暑い夏を乗り切る”という点で理にかなった食材なのです。

暑いと食欲が湧かずさっぱりした麺類だけ、という方も多いのではないのでしょうか？1回の食事が少なくてもバランス良く食べる事が何よりの夏バテ・熱中症予防につながります！しっかり食べて熱中症になりにくい体力を身につけましょう！

当院でも土用の丑の日に、うなぎを提供しています！今年も7/30でした♪



9月、10月の外来診療に関する医師不在日案内

9月

科名	医師名	不在日
眼科	辻屋 壮介	15日(金)
皮膚科	中尾 将治	15日(金)PM 19日(火) 20日(水)AM
	服部 奏子	28日(木)AM 29日(金)AM
脳神経外科	桑山 直也	13日(水) 15日(金) 29日(金)
小児科	足立 雄一	15日(金) 29日(金)PM
	津幡 真一	28日(木)
耳鼻いんこう科	赤荻 勝一	29日(金)
	山田 貴裕	15日(金) 28日(木)
整形外科	清水 一夫	8日(金) 11日(月)
	和田 輝至	25日(月)
	杉森 一仁	7日(木) 8日(金)
内科	黒川 敏郎	28日(木)
	賀来 文治	14日(木)PM
	品川 和子	5日(火) 7日(木)
	仙田 聡子	1日(金) 4日(月)
	川島 隼人	7日(木)
	横山 茉貴	19日(火) 21日(木) 22日(金)
	渡邊かすみ	14日(木)
	日比野真也	15日(金)PM
橋本 泰樹	15日(金)PM	
泌尿器科	長坂 康弘	25日(月) 26日(火)
	山本 篤	15日(金) 19日(火) 20日(水)

10月

科名	医師名	不在日
皮膚科	中尾 将治	12日(木)AM 13日(金) 19日(木)AM 20日(金) 23日(月)
	服部 奏子	30日(月)AM 31日(火)AM
小児科	足立 雄一	6日(金) 20日(金)
	津幡 真一	19日(木)
呼吸器外科	宮津 克幸	19日(木)
心臓外科	池田 真浩	27日(金)
脳神経外科	桑山 直也	25日(水) 27日(金)
	津村真太郎	12日(木) 16日(月)
耳鼻いんこう科	赤荻 勝一	2日(月) 27日(金)
	山田 貴裕	16日(月) 26日(木)
高令心療科	殿谷 康博	10日(火)PM 17日(火)PM 25日(水)PM 31日(火)
内科	高田 裕之	5日(木) 10日(火)PM 31日(火)PM
	賀来 文治	12日(木)
	川根 隆志	20日(金)
	品川 和子	26日(木) 27日(金)
	渡邊かすみ	5日(木)
	田畑 和久	19日(木)PM
泌尿器科	長坂 康弘	12日(木) 13日(金)
	山本 篤	5日(木) 6日(金)

※不在日には、代診を立てております。

患者支援センターからのお知らせ

令和5年度「第84回地域医療連携の会」

令和5年11月に開催を予定しております。

※詳細は後日お知らせいたします。みなさまの参加をお待ちしております。



編集後記

日中はまだ暑さが残るものの、朝夕は秋風の心地よい時節となりました。

退院調整を担当している山田です。

私は現在、病院の医療ソーシャルワーカーとして、相談支援や退院援助などを行っています。病気になると、経済的・社会的・心理的に悩みや課題がたくさん出てきます。生活で困っていることや病気の不安について、患者さん本人とご家族からの相談に対応しています。また、退院援助では、本人の不安や課題と向き合い、退院後に安心して生活できるように院内スタッフや地域の関係機関と連携を取りながら支援をしています。

社会人一年目でわからないことも多く、上司や先輩方にアドバイスを受けながら仕事をしています。相談員としてはまだまだ未熟ですが、精いっぱい励んでいきますので、これからもよろしくお願いいたします。

(患者支援センター 社会福祉士 山田 紗彩)



紹介依頼など、下記までお問い合わせください。

富山赤十字病院
患者支援センター

TEL : 076-433-2492 FAX : 076-433-2493

e-mail : byousinrenkei@toyama-med.jrc.or.jp

夜間・休日のお問い合わせは…TEL : 076-433-2222(代表)

Fax : 076-433-2410(夜間・休日のみ)